(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3147085号
(U3147085)
(45)発行日　平成20年12月11日(2008.12.11)　(24)登録日　平成20年11月19日(2008.11.19)

(51)Int.Cl.		F I		
B65D 5/52	(2006.01)	B65D	5/52	J
B65D 77/02	(2006.01)	B65D	5/52	F
		B65D	77/02	D

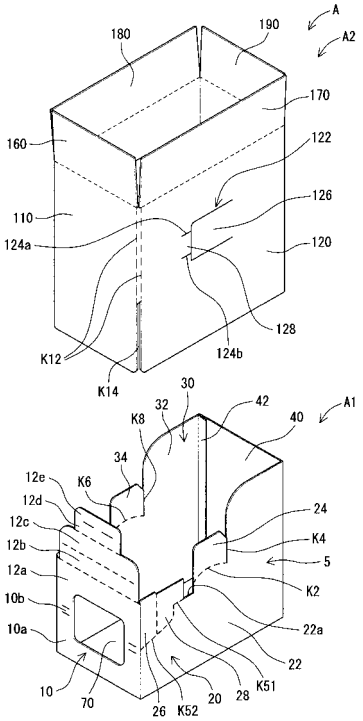
評価書の請求 未請求　請求項の数 3　ＯＬ　（全 24 頁）

(21)出願番号　実願2008-6947(U2008-6947)
(22)出願日　平成20年10月2日(2008.10.2)

(73)実用新案権者　000129493
株式会社クラウン・パッケージ
愛知県小牧市小針三丁目６７番地
(74)代理人　100093931
弁理士　長屋　直樹
(72)考案者　工藤　陽介
愛知県小牧市小針三丁目６７番地　株式会社クラウン・パッケージ内

(54)【考案の名称】包装箱

(57)【要約】　（修正有）
【課題】陳列される商品の広告や説明をして商品の販促を図ることができる包装箱を提供する。
【解決手段】底面部と、内側スリーブ状部の内側側面部の一部が分離部として他の部分と切目線を介して分離可能な内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内側スリーブ状部を構成する各内側側面部に対応して外側側面部を有する外側スリーブ状部と、蓋部とを有し、分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、切目線により形成された片部が分離部と接着されている外箱部と、を有する包装箱において、内箱部の側面部２０，３０には、収納部側面構成部２６、収納部正面構成部２８等が形成され、正面部１０には、本体部１０ａと、帯状部１０ｂと、収納部背面構成部１２ａと、収納部底面構成部１２ｂと、収納部正面構成部１２ｃと、収納部正面裏側構成部１２ｄと、収納部底面内側構成部１２ｅとを有し、これらにより収納部が形成される。
【選択図】図３



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
包装箱であって、
略方形状の底面部と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなす内側スリーブ状部で、内側正面部と、相対する一対の内側側面部と、内側背面部とからなる内側スリーブ状部とを有し、相対する一対の内側側面部における各内側側面部が、内側側面部本体部と、分離部と、分離部よりも正面側に形成された収納部側面構成部及び収納部正面構成部とを有していて、収納部の組立て前の状態では平板状に形成され、該分離部が、内側側面部本体部とミシン目を有する切目線を介して内側側面部本体部から分離可能に形成され、１枚のブランクにより形成された内箱部と、
内箱部を覆う外箱部で、内箱部の内側スリーブ状部を構成する内側正面部と一対の内側側面部と内側背面部の各部に対応して該各部の外側の面に沿って設けられた外側スリーブ状部で、内側正面部の外側の面に沿って形成された外側正面部と、一対の内側側面部における各内側側面部の外側の面に沿ってそれぞれ形成された外側側面部と、内側背面部の外側の面に沿って形成された外側背面部とを有する外側スリーブ状部と、外側スリーブ状部の上端から折れ線を介して連設された蓋部とを有し、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部に分離部が接着され、外側側面部における分離部が接着された領域が該外側側面部の他の部分から破断可能に形成され、１枚のブランクにより形成された外箱部と、
を有し、
外側側面部における分離部が接着された領域が破断することにより、分離部が外側側面部に接着した状態のまま内箱部から分離し、
該内箱部の正面部は、底面部から折れ線を介して連設された本体部と、本体部の上辺から折れ線を介して連設された収納部背面構成部と、収納部背面構成部の本体部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部底面構成部と、収納部底面構成部の収納部背面構成部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された第２収納部正面構成部と、第２収納部正面構成部の収納部底面構成部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部正面裏側構成部と、収納部正面裏側構成部の第２収納部正面構成部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部底面内側構成部とを有し、収納部の組立て前の状態では、全体に平板状に形成され、
また、内側側面部において、該収納部側面構成部が、収納部背面構成部と折れ線を介して連設されるとともに、内側側面部本体部の正面側の上端とミシン目を有する切目線を介して連設され、該収納部正面構成部が、該収納部側面構成部の収納部背面構成部側と反対側の辺部から折れ線を介して連設されるとともに、内側側面部本体部の上端とミシン目を有する切目線を介して連設され、
収納部側面構成部と収納部正面構成部とを切目線を破断して内側側面部本体部から分離し、収納部背面構成部を本体部に対して折り曲げて、収納部背面構成部を本体部の正面側に本体部と略平行に位置させ、収納部側面構成部を収納部背面構成部に折り曲げて収納部背面構成部に対して略直角とし、さらに、収納部正面構成部を収納部側面構成部に対して折り曲げて収納部正面構成部を収納部背面構成部の正面側に収納部背面構成部と略平行とし、収納部底面構成部を収納部背面構成部に対して正面側に折り曲げ、収納部背面構成部に対して略直角とし、第２収納部正面構成部を収納部底面構成部に対して上方に折り曲げ、収納部底面構成部に対して略直角とし、収納部正面裏側構成部を第２収納部正面構成部に対して折り曲げ、第２収納部正面構成部の背面側に第２収納部正面構成部と略平行として、第２収納部正面構成部と収納部正面裏側構成部とで収納部正面部構成部を挟んだ状態とし、収納部底面内側構成部を収納部正面裏側構成部に対して折り曲げて、収納部底面構成部の上面に接するようにすることにより、収納部側面構成部と、収納部正面構成部と、本体部と、収納部背面構成部と、収納部底面構成部と、第２収納部正面構成部と、収納部正面裏側構成部と、収納部底面内側構成部とにより収納部を形成することを特徴とする包装箱。

【請求項２】
内側側面部本体部の上端と切目線を介して連設された上記収納部正面構成部において、収納部として組み立てた際に内側の下側に内側に突出する突状部が形成され、該突状部が第２収納部正面構成部と収納部正面裏側構成部とで挟まれた状態となることを特徴とする請求項１に記載の包装箱。
【請求項３】
内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、略コ字状の切込みが、該略コ字状の切込みにより形成された片部が水平方向に回動可能となるように形成され、該片部の内側の面が分離部と接着されていることを特徴とする請求項１又は２に記載の包装箱。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、包装箱に関するものであり、複数の商品を集合して包装するとともに、包装箱の一部を分離させて商品を店頭等に陳列する包装箱に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来より、複数の商品を集合して包装するとともに、店頭等に陳列する包装箱として、出願人は、特許文献１の包装箱について出願をしている。すなわち、特許文献１は、包装箱であって、底面部と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなす複数の内側側面部からなる内側スリーブ状部とを有し、上部が開口した内箱部で、少なくとも２つの内側側面部において、内側側面部の上端の領域の一部が分離部として他の部分とミシン目を有する切目線を介して分離可能に形成された内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内箱部の内側スリーブ状部を構成する各内側側面部に対応して各内側側面部の外側の面に沿って設けられた外側側面部を有する外側スリーブ状部と、複数の外側側面部における少なくとも１つから連設された蓋部とを有し、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、略コ字状の切込みが、該略コ字状の切込みにより形成された片部が水平方向に回動可能となるように形成され、該片部の内側の面が分離部と接着されている外箱部と、を有し、該略コ字状の切込みにより形成される片部を水平方向に外側に回動させることにより、分離部が片部に接着した状態のまま内箱部から分離することを特徴とするものである。
【０００３】
また、出願人は、特許文献２、特許文献３に記載の先行技術文献を知得している。
【特許文献１】実用新案登録第３１３９９４８号公報
【特許文献２】特開２００３－１２８０５１号公報
【特許文献３】特開２００３－１２８０５２号公報
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００４】
しかし、上記のような包装箱において、包装箱に収納されて陳列された商品の広告や説明をして商品の販促を図ることができるものが望まれていた。
【０００５】
そこで、本考案は、底面部と、内側スリーブ状部を有する内箱部で、内側スリーブ状部の内側側面部の一部が分離部として他の部分と切目線を介して分離可能な内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内側スリーブ状部を構成する各内側側面部に対応して外側側面部を有する外側スリーブ状部と、蓋部とを有し、分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、切目線により形成された片部が分離部と接着されている外箱部と、を有する包装箱において、内箱部に収納されて陳列される商品の広告や説明をして商品の販促を図ることができるものを提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】

【０００６】
本考案は上記問題点を解決するために創作されたものであって、第１には、包装箱であって、略方形状の底面部と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなす内側スリーブ状部で、内側正面部と、相対する一対の内側側面部と、内側背面部とからなる内側スリーブ状部とを有し、相対する一対の内側側面部における各内側側面部が、内側側面部本体部と、分離部と、分離部よりも正面側に形成された収納部側面構成部及び収納部正面構成部とを有していて、収納部の組立て前の状態では平板状に形成され、該分離部が、内側側面部本体部とミシン目を有する切目線を介して内側側面部本体部から分離可能に形成され、１枚のブランクにより形成された内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内箱部の内側スリーブ状部を構成する内側正面部と一対の内側側面部と内側背面部の各部に対応して該各部の外側の面に沿って設けられた外側スリーブ状部で、内側正面部の外側の面に沿って形成された外側正面部と、一対の内側側面部における各内側側面部の外側の面に沿ってそれぞれ形成された外側側面部と、内側背面部の外側の面に沿って形成された外側背面部とを有する外側スリーブ状部と、外側スリーブ状部の上端から折れ線を介して連設された蓋部とを有し、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部に分離部が接着され、外側側面部における分離部が接着された領域が該外側側面部の他の部分から破断可能に形成され、１枚のブランクにより形成された外箱部と、を有し、外側側面部における分離部が接着された領域が破断することにより、分離部が外側側面部に接着した状態のまま内箱部から分離し、該内箱部の正面部は、底面部から折れ線を介して連設された本体部と、本体部の上辺から折れ線を介して連設された収納部背面構成部と、収納部背面構成部の本体部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部底面構成部と、収納部底面構成部の収納部背面構成部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された第２収納部正面構成部と、第２収納部正面構成部の収納部底面構成部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部正面裏側構成部と、収納部正面裏側構成部の第２収納部正面構成部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部底面内側構成部とを有し、収納部の組立て前の状態では、全体に平板状に形成され、また、内側側面部において、該収納部側面構成部が、収納部背面構成部と折れ線を介して連設されるとともに、内側側面部本体部の正面側の上端とミシン目を有する切目線を介して連設され、該収納部正面構成部が、該収納部側面構成部の収納部背面構成部側と反対側の辺部から折れ線を介して連設されるとともに、内側側面部本体部の上端とミシン目を有する切目線を介して連設され、収納部側面構成部と収納部正面構成部とを切目線を破断して内側側面部本体部から分離し、収納部背面構成部を本体部に対して折り曲げて、収納部背面構成部を本体部の正面側に本体部と略平行に位置させ、収納部側面構成部を収納部背面構成部に折り曲げて収納部背面構成部に対して略直角とし、さらに、収納部正面構成部を収納部側面構成部に対して折り曲げて収納部正面構成部を収納部背面構成部の正面側に収納部背面構成部と略平行とし、収納部底面構成部を収納部背面構成部に対して正面側に折り曲げ、収納部背面構成部に対して略直角とし、第２収納部正面構成部を収納部底面構成部に対して上方に折り曲げ、収納部底面構成部に対して略直角とし、収納部正面裏側構成部を第２収納部正面構成部に対して折り曲げ、第２収納部正面構成部の背面側に第２収納部正面構成部と略平行として、第２収納部正面構成部と収納部正面裏側構成部とで収納部正面部構成部を挟んだ状態とし、収納部底面内側構成部を収納部正面裏側構成部に対して折り曲げて、収納部底面構成部の上面に接するようにすることにより、収納部側面構成部と、収納部正面構成部と、本体部と、収納部背面構成部と、収納部底面構成部と、第２収納部正面構成部と、収納部正面裏側構成部と、収納部底面内側構成部とにより収納部を形成することを特徴とする。

【０００７】
この第１の構成の包装箱においては、蓋部を開けた状態として、包装箱の上方から複数の被収納物（商品）を内箱部内に収納する。その後、蓋部を閉状態にして、接着テープにより蓋部を封止する。つまり、外箱部の外側正面部から上面を経て外側背面部側にまで接着テープを貼り付けることにより蓋部を封止する。被収納物を包装箱に包装したら、被収

納物を収納した包装箱を被収納物を陳列する場所に搬送する。その後、被収納物を陳列する場合には、外箱部を内箱部から分離する。すなわち、外側側面部における分離部が接着された領域を破断することにより、分離部が外側側面部に接着した状態のまま内箱部から分離させ、外箱部を上方に引き上げることにより、被収納物を収納した状態で、かつ、分離部が分離した状態の内箱部が残るので、被収納物を内箱部に収納した状態で被収納物を陳列する。また、収納部を組み立てることにより、収納部に商品の広告や説明等を記載したカードを収納しておく。

【０００８】

よって、包装箱に対して上方から被収納物である商品を収納して、蓋部を閉じて封止するのみであるので、容易に被収納物（商品）の梱包作業を行うことができ、また、片部を外側に回動させて、分離部を内箱部から分離して外箱部を上方に引き上げるのみで陳列することができるので、陳列作業を容易に行なうことができる。特に、本考案の包装箱では、収納部が形成されるので、商品の広告や説明等を記載したカードを収納でき、販促効果を向上させることができる。

【０００９】

また、第２には、上記第１の構成において、内側側面部本体部の上端と切目線を介して連設された上記収納部正面構成部において、収納部として組み立てた際に内側の下側に内側に突出する突状部が形成され、該突状部が第２収納部正面構成部と収納部正面裏側構成部とで挟まれた状態となることを特徴とする。よって、収納部の正面側を広く開口した構成とすることができ、収納されたカードを見やすくすることができる。

【００１０】

また、第３には、上記第１又は第２の構成において、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、略コ字状の切込みが、該略コ字状の切込みにより形成された片部が水平方向に回動可能となるように形成され、該片部の内側の面が分離部と接着されていることを特徴とする。

【考案の効果】

【００１１】

本考案に基づく包装箱によれば、包装箱に対して上方から被収納物である商品を収納して、蓋部を閉じて封止するのみであるので、容易に被収納物（商品）の梱包作業を行うことができ、また、片部を外側に回動させて、分離部を内箱部から分離して外箱部を上方に引き上げるのみで陳列することができるので、陳列作業を容易に行なうことができる。特に、本考案の包装箱では、収納部が形成されるので、商品の広告や説明等を記載したカードを収納でき、販促効果を向上させることができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【００１２】

本考案においては、底面部と、内側スリーブ状部を有する内箱部で、内側スリーブ状部の内側側面部の一部が分離部として他の部分と切目線を介して分離可能な内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内側スリーブ状部を構成する各内側側面部に対応して外側側面部を有する外側スリーブ状部と、蓋部とを有し、分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、切目線により形成された片部が分離部と接着されている外箱部と、を有する包装箱において、内箱部に収納されて陳列される商品の広告や説明をして商品の販促を図ることができるものを提供するという目的を以下のようにして実現した。

【００１３】

本考案に基づく包装箱Ａは、図１～図８等に示すように構成され、図１、図３、図４、図１０、図１３等に示すように、内箱部Ａ１と、外箱部Ａ２とを有していて、それぞれが１枚のシート状のブランク（具体的には、段ボール、厚紙等）により形成されている。

【００１４】

内箱部Ａ１は、全体に上部が開口した容器状を呈し、図３、図６等に示すように、スリーブ状部（内側スリーブ状部）５と、底面部５０とを有している。スリーブ状部５は、組立て状態では、底面部５０の周囲から立設して形成され、正面部（内側正面部）１０と、

側面部（内側側面部）２０と、側面部（内側側面部）３０と、背面部（内側背面部）４０と、糊代部４２とを有していて、その展開状態は、図６に示すように形成されている。

【００１５】

ここで、正面部１０は、全体には、略方形状の開口部が形成された方形状の上端に略凸状の形状を結合した形状を呈し、本体部１０ａと、本体部１０ａの上端から折れ線（折曲しやすいように切込みが形成された折れ線）を介して連設された帯状部１０ｂと、帯状部１０ｂの本体部１０ａとは反対側の辺部から折れ線（折曲しやすいように切込みが形成された折れ線）を介して連設された収納部背面構成部１２ａと、収納部背面構成部１２ａの帯状部１０ｂとは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部底面構成部１２ｂと、収納部底面構成部１２ｂの収納部背面構成部１２ａとは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部正面構成部１２ｃと、収納部正面構成部１２ｃの収納部底面構成部１２ｂとは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部正面裏側構成部１２ｄと、収納部正面裏側構成部１２ｄの収納部正面構成部１２ｃとは反対側の辺部から折れ線（折曲しやすいように切込みが形成された折れ線）を介して連設された収納部底面内側構成部１２ｅとを有している。

【００１６】

本体部１０ａは、方形状の上端に方形状の切欠部を形成した形状を呈している。また、帯状部１０ｂは、本体部１０ａの上端、すなわち、切欠部が形成されていない端部から連設され、横方向に帯状を呈している。

【００１７】

また、収納部背面構成部１２ａは、方形状の下端に方形状の切欠部を形成した形状を呈し、帯状部１０ｂを挟んで本体部１０ａと線対称に形成されていて、上下方向の幅は、本体部１０ａと略同一である。つまり、本体部１０ａと帯状部１０ｂと収納部背面構成部１２ａとは、方形状の略中央に方形状の開口部を設け、開口部の左右両側に帯状部を形成した形状であるといえる。本体部１０ａと帯状部１０ｂと収納部背面構成部１２ａは、左右方向に同一の幅に形成されている。

【００１８】

また、収納部底面構成部１２ｂは、横方向に細長の長方形状を呈し、上下方向の幅（収納部Ｓの組立て時には前後方向の幅）は、収納部背面構成部１２ａの上下方向の幅よりも小さく形成されており、また、左右方向には、収納部背面構成部１２ａよりも小さく形成され、収納部底面構成部１２ｂの両側において、収納部背面構成部１２ａの端部と間隔が形成されている。

【００１９】

また、収納部正面構成部１２ｃは、横方向に細長の略長方形状を呈し、上下方向の幅は、収納部背面構成部１２ａの上下方向の幅よりも小さく形成されており、収納部底面構成部１２ｂの幅と略同一に形成されている。また、左右方向には、収納部底面構成部１２ｂと同一の幅に形成され、両側の辺部は面一となっている。また、収納部正面構成部１２ｃの上端の両側の角部はアール状に形成されている。つまり、収納部正面構成部１２ｃは、長方形状の上端の両側にアールを形成した形状となっている。

【００２０】

また、収納部正面裏側構成部１２ｄは、横方向に細長の長方形状を呈し、上下方向の幅は、収納部正面構成部１２ｃと略同一（又は若干小さく）に形成されており、また、左右方向には、収納部正面構成部１２ｃよりも小さく形成され、収納部正面裏側構成部１２ｄの両側において、収納部正面構成部１２ｃの端部と間隔が形成されている。なお、この収納部正面裏側構成部１２ｄの横方向の長さは、収納部Ｓを組み立てた際に、側面部２０、３０における収納部正面構成部２８と収納部正面構成部３８とが対向するが、収納部正面構成部２８と収納部正面構成部３８に形成された切欠部の縦方向の辺部間の距離Ｓ１（図１５参照）と略同一となっている。

【００２１】

また、収納部底面内側構成部１２ｅは、横方向に細長の略長方形状を呈し、上下方向の

幅は、収納部底面構成部１２ｂと略同一（又は若干小さく）に形成されている。また、左右方向には、収納部正面裏側構成部１２ｄと同一の幅に形成され、両側の辺部は面一となっている。また、収納部底面内側構成部１２ｅの上端の両側の角部はアール状に形成されている。つまり、収納部底面内側構成部１２ｅは、長方形状の上端の両側にアールを形成した形状となっている。

【００２２】

正面部１０は、収納部Ｓを組み立てる前の状態では、平板状を呈し、本体部１０ａ、帯状部１０ｂ、収納部背面構成部１２ａ、収納部底面構成部１２ｂ、収納部正面構成部（第２収納部正面構成部）１２ｃ、収納部正面裏側構成部１２ｄ、収納部底面内側構成部１２ｅの順に上方に伸びた状態となっている。

【００２３】

なお、帯状部１０ｂを省略して、収納部背面構成部１２ａを本体部１０ａから連設させてもよい。また、帯状部１０ｂと収納部背面構成部１２ａとを合わせた構成を収納部背面構成部としてもよい。

【００２４】

また、側面部２０は、正面部１０の正面視における右側の端部から折れ線を介して連設され、方形状における上側の一部を切り欠いた形状を呈し、その上端の縁部は、凹凸形状に形成され、背面側の端部においては、背面部４０の上端の縁部の高さと同じに形成されている。この側面部２０は、本体部２２と、分離部２４と、収納部側面構成部２６と、収納部正面構成部２８とを有している。

【００２５】

ここで、側面部２０の上端の領域の一部にミシン目Ｋ２と切込みＫ４とからなる境界線で区画することにより分離部２４が形成され、ミシン目Ｋ５１とミシン目Ｋ５２とからなる境界線で区画することにより収納部側面構成部２６と収納部正面構成部２８が形成される。本体部２２は、側面部２０における分離部２４と収納部側面構成部２６と収納部正面構成部２８とを除いた領域となる。

【００２６】

すなわち、ミシン目Ｋ２は、横方向（略水平方向）に略円弧状に形成され、切込みＫ４は、ミシン目Ｋ２の背面側の端部から垂直方向（つまり、水平方向（側面部２０の下辺の方向）に直角の方向）に直線状に形成されている。つまり、分離部２４は、側面部２０の上端の領域の一部、すなわち、正面部側の端部から背面部側の端部にまでの上端の縁部に接する領域に形成され、本体部２２とミシン目Ｋ２を介して分離可能に形成されている。

【００２７】

分離部２４は、正面側と上面側と背面側が直線状に形成され、下面側が円弧状に形成されるとともに、背面側の上端に略直角三角形状の切欠部が形成されていて、全体に略方形状の下端に円弧状の切欠部が形成された形状となっている。分離部２４の上辺は水平方向に形成され、正面側と背面側の辺部は垂直方向に形成されている。つまり、分離部２４の下辺はミシン目Ｋ２により形成され、分離部２４の背面側の辺部は切込みＫ４により形成されている。

【００２８】

分離部２４の形状は、外箱部Ａ２の側面の片部１２６を外側に回動させることにより、分離部２４を本体部２２から分離し、その後、外箱部Ａ２を上方に引き上げる際に支障とならないように形成されている。つまり、分離された分離部２４が本体部２２に対して上方に移動する際に支障とならないように、分離部２４は、側面部２０の上端の領域の一部、すなわち、側面部２０の正面側の端部から背面側の端部までの上端の縁部に接する領域の一部に設けられ、ミシン目Ｋ２や切込みＫ４は水平方向（側面部２０の下辺の方向）に対して９０度以下に形成されている。例えば、図７に示すように、ミシン目Ｋ２の水平方向に対する角度α１、α２は９０度以下に形成され（特に、α２はマイナスの角度である）、また、切込みＫ４の水平方向に対する角度α３も９０度以下に形成されている。仮に、切込みＫ４の角度が９０度よりも大きくなってしまうと、分離部２４を本体部２２に対

して上方に移動させる際に、本体部２２が支障となってしまうが、本実施例の場合にはそのようなおそれがない。

【００２９】

また、収納部側面構成部２６と、収納部正面構成部２８とは、側面部２０の正面側の上端領域に形成され、ミシン目Ｋ５１とミシン目Ｋ５２を介して本体部２２の上側に形成されている。ここで、ミシン目Ｋ５１は、本体部２２において分離部２４よりも正面側にある水平方向の辺部２２ａの延長線状に形成され、直線状に形成されている。また、ミシン目Ｋ５２は、ミシン目Ｋ５１の正面側の端部から連設され、ミシン目Ｋ５１との接続位置では、ミシン目Ｋ５１に対して略直角に下方を向くとともに、下方に行くに従い正面側に湾曲した湾曲部Ｋ５２ａと、該湾曲部Ｋ５２ａから連設されて水平方向に対して斜めに傾斜した直線状部Ｋ５２ｂとを有している。そして、この直線状部Ｋ５２ｂの途中位置から上方に垂直方向に折れ線２７が形成されて、折れ線２７の正面側が収納部側面構成部２６となり、折れ線２７の背面側が収納部正面構成部２８となる。

【００３０】

すなわち、収納部側面構成部２６は、略台形形状を呈し、正面部１０（特に、収納部背面構成部１２ａ）との境界線となる折れ線と、ミシン目Ｋ５２における直線状部Ｋ５２ｂの一部と、折れ線２７と上辺とで囲まれて構成されている。なお、収納部側面構成部２６の上辺は、台形状に若干突出した形状となっている。

【００３１】

また、収納部正面構成部２８は、略鉤状を呈し、ミシン目Ｋ５２の直線状部Ｋ５２ｂの一部と湾曲部Ｋ５２ａとミシン目Ｋ５１と、辺部２２ａから上方に垂直方向に伸びた直線状の辺部と、直線状の上辺と、折れ線２７とにより囲まれて構成され、特に、ミシン目Ｋ５１と湾曲部Ｋ５２ａによって切欠部が形成された形状となっている。つまり、収納部Ｓとして組み立てた際に内側の下側に内側に突出する突状部が形成された形状を呈している。

【００３２】

本体部２２は、側面部２０における分離部２４と収納部側面構成部２６と収納部正面構成部２８以外の部分であり、全体に略Ｌ字状を呈し、その屈曲部の内側に分離部２４が形成されているといえる。

【００３３】

この分離部２４の形成位置は、外箱部Ａ２の片部１２６の裏側の領域であり、分離部２４は片部１２６の裏側に接着され、片部１２６を外側に回動させることにより、分離部２４も片部１２６の裏側に接着したままミシン目Ｋ２が破断されて、分離部２４が本体部２２から分離するように形成されている。分離部２４は、片部１２６よりも小さく形成されていて、分離部２４の外形が片部１２６の外形よりもはみだすことがない。なお、分離部２４と本体部２２との境界をなすミシン目Ｋ２と切込みＫ４は、上記切目線となる。

【００３４】

また、側面部３０は、正面部１０の正面視における左側の端部から折れ線を介して連設され、方形状における上側の一部を切り欠いた形状を呈し、その上端の縁部は、凹凸形状に形成され、背面側の端部においては、背面部４０の上端の縁部の高さと同じに形成されている。この側面部３０は、本体部３２と、分離部３４と、収納部側面構成部３６と、収納部正面構成部３８とを有している。この側面部３０の構成は、側面部２０と前後方向に垂直な仮想的な平面である中心面を介して対称に形成されていて、本体部３２は本体部２２と対称（展開状態では線対称）に形成され、分離部３４は分離部２４と対称（展開状態では線対称）に形成され、収納部側面構成部３６は収納部側面構成部２６と対称（展開状態では線対称）に形成され、収納部正面構成部３８は収納部正面構成部３８と対称（展開状態では線対称）に形成されていることから詳しい説明を省略する。

【００３５】

なお、側面部３０の上端の領域の一部にミシン目Ｋ６と切込みＫ８とからなる境界線で区画することにより分離部３４が形成され、ミシン目Ｋ９１（分離部３４よりも正面側に

ある水平方向の辺部３２ａの延長線状に形成されている）とミシン目Ｋ９２とからなる境界線で区画することにより収納部側面構成部３６と収納部正面構成部３８が形成される。収納部側面構成部３６と収納部正面構成部３８間には、折れ線３７が形成されている。

【００３６】

また、分離部３４の形成位置は、外箱部Ａ２の片部１３６の裏側の領域であり、分離部３４は片部１３６の裏側に接着され、片部１３６を外側に回動させることにより、分離部３４も片部１３６の裏側に接着したままミシン目Ｋ６が破断されて、分離部３４が本体部３２から分離するように形成されている。なお、分離部３４と本体部３２との境界をなすミシン目Ｋ６と切込みＫ８は、上記切目線となる。

【００３７】

また、背面部４０は、側面部２０の右側面視における右端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形状）を呈している。この背面部４０の横幅は、正面部の横幅と同一に形成され、背面部４０の縦幅は、側面部２０、３０の縦幅（最大縦幅）と同一に形成されている。

【００３８】

また、糊代部４２は、側面部３０の左側面視における左端から折れ線を介して連設され、縦方向に細長の帯状台形形状を呈している。この糊代部４２は、図３に示すように、その外側の面が背面部４０の内側の面に接着されている。

【００３９】

また、底面部５０は、接続片部６０と、本体部７０と、副体部８０と、接続片部９０とを有し、包装箱Ａの組立て状態においては、図５に示すように、略方形状を呈している。ここで、接続片部６０は、正面部１０の下端から折れ線を介して連設され、先端側にいくほど幅狭となる略台形形状に形成されている。また、本体部７０は、側面部２０の下端から折れ線を介して連設され、略長方形状に形成され、本体部７０のその上面が内箱部Ａ１の内底面を形成している。また、本体部７０の角部（側面部２０と背面部４０の境界位置の角部）からは本体部７０の側面部２０との境界をなす辺部に対して斜めに所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）折れ線７０－１（この折れ線７０－１は、上面側が山折れ線となっている）が形成され、内箱部Ａ１を折り畳む際に、容易に折り畳むことができるようになっている。本体部７０は、折れ線７０－１を介して本体部本体７２と先端部７４とに区画される。

【００４０】

また、副体部８０は、側面部３０の下端から折れ線を介して連設され、細長の長方形状の長手方向の一方の端部において側面部３０との境界線とは反対側に略台形状に突出させた形状を呈し、副体部８０の角部（側面部３０と正面部１０の境界位置の角部）からは副体部８０の側面部３０との境界をなす辺部に対して斜めに所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）折れ線８０－１（この折れ線８０－１は、上面側が山折れ線となっている）が形成され、この折れ線８０－１を介して先端側が先端部８４を構成し、折れ線８０－１を介して基端側が基端部８２を構成する。この先端部８４は、図５に示すように、その上面側が、先端部８４の辺部８４ａが正面部１０と接続片部６０の境界線に対して平行になるように、接続片部６０の下面に接着されている。

【００４１】

また、接続片部９０は、背面部４０の下端から折れ線を介して連設され、略台形形状を呈し、この接続片部９０の角部（側面部２０と背面部４０の境界位置の角部）からは接続片部９０の背面部４０との境界をなす辺部に対して斜めに所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）折れ線９０－１（この折れ線９０－１は、上面側が山折れ線となっている）が形成され、この折れ線９０－１を介して先端側が先端部９４を構成し、折れ線９０－１を介して基端側が基端部９２を構成する。この先端部９４は、図５に示すように、その上面側が、先端部９４の辺部９４ａが側面部２０と本体部７０の境界線に対して平行になるように、本体部７０（特に、本体部本体７２

）の下面に接着されている。

【００４２】

内箱部Ａ１を箱状に組み立てた状態では、正面部１０と背面部４０とが互いに平行になり、側面部２０と側面部３０とが互いに平行になり、底面部５０を構成する各部材は、正面部１０、側面部２０、３０、背面部４０に対して略直角（直角でもよい）となる。また、スリーブ状部５を構成する各部材（正面部１０、側面部２０、３０、背面部４０）における隣接する部材は互いに直角となっている。また、内箱部Ａ１は、平板状に折り畳むことができ、正面部１０と側面部３０との角度を小さくし、背面部４０と側面部２０との角度を小さくさせるとともに、本体部７０を上方に回動させて本体部７０が側面部２０に対して略平行になるようにすることにより、図１０に示すように、内箱部Ａ１が全体に平板状に折り畳むことができる。また、内箱部Ａ１を折り畳んだ状態では、底面部５０を構成する各部は、スリーブ状部５内にスリーブ状部５を構成する正面部１０、側面部２０、３０、背面部４０に対して略平行な状態となる。

【００４３】

また、正面部１０における本体部１０ａと帯状部１０ｂ以外の構成（収納部背面構成部１２ａと、収納部底面構成部１２ｂと、収納部正面構成部１２ｃと、収納部正面裏側構成部１２ｄと、納部底面内側構成部１２ｅ）と、収納部側面構成部２６、３６と、収納部正面構成部２８、３８とを組み立てることにより、収納部Ｓが形成される。

【００４４】

次に、外箱部Ａ２は、内箱部Ａ１を覆う箱体であり、図１～図４、図８等に示すように、スリーブ状部（外側スリーブ状部）１０５と、上面部１６０、１７０、１８０、１９０とを有していて、その展開状態は、図８に示すように形成されている。

【００４５】

ここで、スリーブ状部１０５は、組み立てた状態では、四角形状の筒状を呈し、正面部（外側正面部）１１０と、側面部（外側側面部）１２０と、側面部（外側側面部）１３０と、背面部（外側背面部）１４０とを有している。

【００４６】

ここで、正面部１１０は、方形状（長方形状）の板状を呈している。この正面部１１０の横幅は、内箱部Ａ１を外箱部Ａ２内に収納することができるように、正面部１０の横幅よりも若干大きく形成されている。

【００４７】

また、側面部１２０は、正面部１１０の正面視における右側の端部から折れ線Ｋ１２を介して連設され、方形状を呈し、切込み１２２と切込み１２４ａ、１２４ｂが形成されている。

【００４８】

ここで、切込み１２２は、略コ字状を呈し、横方向（側面部１２０の下辺と略平行な方向）に形成された直線状の第１切込み１２２ａと、第１切込み１２２ａの端部（右側面視における左側の端部）から下側に向けて縦方向（側面部１２０の下辺と略直角な方向）に形成された直線状の第２切込み１２２ｂと、第２切込み１２２ｂの下端から横方向で第１切込み１２２ａに対して平行に形成された直線状の第３切込み１２２ｃにより、全体に略コ字状に形成されている。つまり、第２切込み１２２ｂは、第１切込み１２２ａと第３切込み１２２ｃに対して直角に形成されている。また、第１切込み１２２ａの長さと第３切込み１２２ｃの長さは同一に形成されている。この第１切込み１２２ａと第３切込み１２２ｃ間の幅は、内箱部Ａ１の分離部２４の縦方向の幅よりも大きく形成され、また、第１切込み１２２ａや第３切込み１２２ｃの長さは、分離部２４の横方向の幅よりも大きく形成されている。以上のように、切込み１２２と、第１切込み１２２ａ及び第３切込み１２２ｃの第２切込み１２２ｂ側とは反対側の端部間を結ぶ仮想状の直線により囲まれた領域が、片部１２６となる。

【００４９】

また、第２切込み１２２ｂの上端から下端に向けての途中位置には、第１切込み１２２

ａや第３切込み１２２ｃが設けられている側とは反対側に、横方向に互いに平行な切込み１２４ａ、１２４ｂが形成されている。つまり、切込み１２４ａと切込み１２４ｂは、互いに平行に形成され、第１切込み１２２ａや第３切込み１２２ｃと平行に形成されている。また、切込み１２４ａは、第１切込み１２２ａよりも下側に形成され、切込み１２４ｂは、第３切込み１２２ｃよりも上側に形成されている。以上のように、切込み１２４ａと、切込み１２４ｂと、第２切込み１２２ｂと、切込み１２４ａ及び切込み１２４ｂの第２切込み１２２ｂ側とは反対側の端部間を結ぶ仮想状の直線によりにより囲まれた領域が、片部１２８となる。この側面部１２０の横幅は、内箱部Ａ１を外箱部Ａ２内に収納することができるように、側面部２０の横幅よりも若干大きく形成されている。

【００５０】

なお、正面部１１０と側面部１２０の境界位置には、所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）直線状の折れ線Ｋ１２が互いに平行に２本形成されている。また、側面部１２０と正面部１１０の間の位置における下側には、縦長の切欠部Ｋ１４が形成されている。

【００５１】

また、側面部１３０は、正面部１１０の正面視における左側の端部から折れ線Ｋ１６を介して連設され、方形状を呈し、切込み１３２と切込み１３４ａ、１３４ｂが形成されている。

【００５２】

この側面部１３０の構成は、側面部１２０と前後方向に垂直な仮想的な平面である中心面を介して対称に形成されていて、切込み１３２は、切込み１２２と対称に形成され、横方向に形成された第１切込み１３２ａと、第１切込み１３２ａの端部（左側面視における右側の端部）から下側に向けて縦方向に形成された第２切込み１３２ｂと、第２切込み１３２ｂの下端から横方向で第１切込み１３２ａに対して平行に形成された第３切込み１３２ｃにより、全体に略逆コ字状に形成されている。また、第２切込み１３２ｂの上端から下端に向けての途中位置には、第１切込み１３２ａや第３切込み１３２ｃが設けられている側とは反対側に、横方向に互いに平行な切込み１３４ａ、１３４ｂが形成されている。そして、切込み１３２と、第１切込み１３２ａ及び第３切込み１３２ｃの第２切込み１３２ｂ側とは反対側の端部間を結ぶ仮想状の直線により囲まれた領域が、片部１３６となり、また、切込み１３４ａと、切込み１３４ｂと、第２切込み１３２ｂと、切込み１３４ａ及び切込み１３４ｂの第２切込み１３２ｂ側とは反対側の端部間を結ぶ仮想状の直線によりにより囲まれた領域が、片部１３８となる。切込み１３２の詳しい構成は、切込み１２２と対称である以外は同一の構成であるので、詳しい説明を省略し、また、切込み１３４ａ、１３４ｂの詳しい構成は、切込み１２４ａ、１２４ｂと対称である以外は同一の構成であるので、詳しい説明を省略する。

【００５３】

なお、正面部１１０と側面部１３０の境界位置には、所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）直線状の折れ線Ｋ１６が形成されている。また、側面部１３０と正面部１１０の間の位置における下側には、縦長の切欠部Ｋ１８が形成されている。

【００５４】

また、背面部１４０は、側面部１２０の右側面視における右端から折れ線Ｋ２０を介して連設され、方形状を呈している。この背面部１４０の横幅は、内箱部Ａ１を外箱部Ａ２内に収納することができるように、背面部４０の横幅よりも若干大きく形成されている。

【００５５】

なお、側面部１２０と背面部１４０の境界位置には、所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）直線状の折れ線Ｋ２０が形成されている。

【００５６】

また、糊代部１４２は、背面部１４０の背面視における右端から折れ線（所定間隔で切

込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）直線状の２本の互いに平行な折れ線Ｋ２２）を介して連設され、縦方向に細長の帯状台形形状を呈している。この糊代部１４２は、図２に示すように、その内側の面が側面部１３０の外側の面に接着されている。

【００５７】

また、正面部１１０と側面部１２０、１３０と背面部１４０の縦幅は同一に形成されていて、内箱部Ａ１の縦幅と同一又は若干大きく形成されている。

【００５８】

また、上面部１６０は、正面部１１０の上端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形状）を呈している。また、上面部１７０は、側面部１２０の上端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形状）を呈している。この上面部１７０と上面部１６０との間には隙間が形成されている。また、上面部１８０は、側面部１３０の上端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形状）を呈している。この上面部１８０と上面部１６０との間には隙間が形成されている。また、上面部１９０は、背面部１４０の上端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形状）を呈している。これら４つの上面部１６０～１９０は、外箱部Ａ２の上面を開閉するものであり、特に、上面部１７０と上面部１８０を閉状態とすることにより外箱部Ａ２の上面が塞がれる。つまり、上面部１６０～１９０は、蓋部を構成する。なお、上面部１６０～１９０は、予め上方に立設した状態になっていて、外箱部Ａ２の上方が開口した状態になっている。なお、外箱部Ａ２の展開状態においては、図８に示すように、上面部１６０～１９０における隣接した上面部においては、隙間Ｋ２４、Ｋ２６、Ｋ２８が形成されている。なお、蓋部としての上面部１６０～１９０はスリーブ状部１０５の上端の各辺から連設されているが、少なくとも１つの上面部から連設されていればよい。

【００５９】

外箱部Ａ２を箱状に組み立てた状態では、正面部１１０と背面部１４０とが互いに平行になり、側面部１２０と側面部１３０とが互いに平行になる。また、スリーブ状部１０５を構成する各部材（正面部１１０、側面部１２０、１３０、背面部１４０）における隣接する部材は互いに直角となっている。

【００６０】

次に、内箱部Ａ１と外箱部Ａ２とは、分離部２４、３４の箇所で互いに接着されている。つまり、分離部２４の外側の面と側面部１２０の内側の面とが接着剤その他の接着手段により接着されるとともに、分離部３４の外側の面と側面部１３０の内側の面とが接着剤その他の接着手段により接着されることにより、包装箱Ａが全体に一体に形成される。つまり、分離部２４の外側の面の全部又は一部の領域と側面部１２０の内側の面の間には接着剤層（図示せず）が設けられていて、同様に、分離部３４の外側の面の全部又は一部の領域と側面部１３０の内側の面の間には接着剤層（図示せず）が設けられている。これにより、外箱部Ａ２のスリーブ状部１０５は、内箱部Ａ１におけるスリーブ状部５の外側の面に沿って設けられ、例えば、正面部１０の外側の面に沿って正面部１１０が設けられ、側面部２０の外側の面に沿って側面部１２０が設けられ、側面部３０の外側の面に沿って側面部１３０が設けられ、背面部４０の外側の面に沿って背面部１４０が設けられている。該接着剤層の接着力は、外箱部Ａ２の片部１２６を外側に回動させた際に、同時に分離部２４の下側のミシン目Ｋ２が破れて、分離部２４が内箱部Ａ１から分離し、回動させた片部１２６に接着した状態で片部１２６に従動するように設定されていて、同様に、外箱部Ａ２の片部１３６を外側に回動させた際に、同時に分離部３４の下側のミシン目Ｋ６が破れて、分離部３４が内箱部Ａ１から分離し、回動させた片部１３６に接着した状態で片部１３６に従動するように設定されている。

【００６１】

また、内箱部Ａ１と外箱部Ａ２とが接着された状態では、内箱部Ａ１の下端と外箱部Ａ２の下端とが同じ高さになるように形成されている。なお、内箱部Ａ１と外箱部Ａ２とは、分離部２４、３４の箇所以外は互いに接着されていない。以上のように、内箱部Ａ１は

外箱部Ａ２の内側に収納した状態となっていて、内箱部Ａ１の底面部５０以外は外箱部Ａ２に被覆された状態となっている。つまり、外箱部Ａ２の下端の高さ方向の位置は、内箱部Ａ１の下端の高さ方向の位置と略同一であり、上面部１６０～１９０を封止した状態では内箱部においては底面部５０のみが露出している。

【００６２】

なお、上記構成の包装箱Ａは、内箱部Ａ１が上記のように折り畳むことができ、また、外箱部Ａ２がスリーブ状部１０５を有し、全体に略スリーブ状を呈しているので、包装箱Ａの状態においても平板状に折り畳むことができ、正面部１１０を側面部１３０に対して略平行になるようにし、かつ、側面部１２０を背面部１４０に対して略平行になるようにすることにより、図９に示すように平板状に折り畳むことができる。

【００６３】

上記構成の包装箱Ａの使用状態について説明する。包装箱Ａを使用しない状況では、上記のように包装箱Ａは平板状に折り畳むことができるので、折り畳んで保管しておく。

【００６４】

そして、包装箱Ａを使用する際に、包装箱Ａを組み立てる。すなわち、外箱部Ａ２における正面部１１０と背面部１４０とが互いに平行になり、側面部１２０と側面部１３０とが互いに平行になるようにするとともに、内箱部Ａ１における正面部１０と背面部４０とが互いに平行になり、側面部２０と側面部３０とが互いに平行になるようにし、底面部５０がスリーブ状部５、１０５に直角になるようにすることにより包装箱Ａが立体状に組み立てられる。

【００６５】

そして、図１１に示すように、包装箱Ａの上方から複数の被収納物（商品）Ｇを内箱部Ａ１内に収納する。図１１は、箱状の商品である例を示しているが、他の被収納物であってもよい。なお、上面部１６０～１９０は、予め上方に立設した状態になっていて、外箱部Ａ２の上方が開口した状態になっているので、被収納物Ｇはそのまま包装箱Ａの上方から収納すればよい。その後、上面部１６０～１９０を閉状態にして、接着テープＴを外箱部Ａ２の正面部１１０から上面を経て背面部１４０側にまで接着させることにより、図１２に示すように、上面部１６０～１９０を封止する。

【００６６】

以上のようにして、被収納物を包装箱Ａに包装したら、被収納物Ｇを収納した包装箱Ａを被収納物Ｇを陳列する場所に搬送する。

【００６７】

その後、被収納物を陳列する場合には、外箱部Ａ２を内箱部Ａ１から分離する。すなわち、図１３に示すように、外箱部Ａ２の側面部１２０の片部１２８を内側に押し込むことにより片部１２６の先端に指を引っかけることができるようにした後に、片部１２６を外側に回動させる。つまり、横方向に形成された第１切込み１２２ａと第３切込み１２２ｃの第２切込み１２２ｂが設けられている側とは反対側の端部間を結ぶ直線状の折れ線（側面部１２０の下辺に対して垂直方向の直線）１２６ａが回動軸となって片部１２６が水平方向に回動する。

【００６８】

同様に、外箱部Ａ２の側面部１３０の片部１３８を内側に押し込むことにより片部１３６の先端に指を引っかけることができるようにした後に、片部１３６を外側に回動させる。つまり、横方向に形成された第１切込み１３２ａと第３切込み１３２ｃの第２切込み１３２ｂが設けられている側とは反対側の端部間を結ぶ直線状の折れ線（側面部１３０の下辺に対して垂直方向の直線）が回動軸となって片部１３６が水平方向に回動する。なお、片部１２６、１３６が回動する際の回動軸となる折れ線の箇所には、罫線を形成しておかなくても片部１２６、１３６を回動させることにより自然と折れ線が形成されるが、予め該折れ線の箇所に罫線を形成しておいてもよい。

【００６９】

すると、外箱部Ａ２の片部１２６を外側に回動させた際に、同時に分離部２４の下側の

ミシン目Ｋ２が破れて、分離部２４が内箱部Ａ１から分離し、回動させた片部１２６に接着した状態で片部１２６に従動する。同様に、外箱部Ａ２の片部１３６を外側に回動させた際に、同時に分離部３４の下側のミシン目Ｋ６が破れて、分離部３４が内箱部Ａ１から分離し、回動させた片部１３６に接着した状態で片部１３６に従動する。

【００７０】

そして、図１４に示すように、外箱部Ａ２を上方に引き上げることにより、被収納物を収納した状態で、かつ、分離部２４、３４が分離した状態の内箱部Ａ１が残るので、その後、収納部Ｓを組み立てる。

【００７１】

すなわち、収納部側面構成部２６と収納部正面構成部２８とをミシン目Ｋ５１、Ｋ５２を破断して本体部２２から分離するとともに、収納部側面構成部３６と収納部正面構成部３８とをミシン目Ｋ９１、Ｋ９２を破断して本体部３２から分離する。その後、正面部１０における帯状部１０ｂを本体部１０ａに対して正面側に折り曲げ、収納部背面構成部１２ａを帯状部１０ｂに対して背面側に折り曲げることにより、収納部背面構成部１２ａを本体部１０ａの正面側に本体部１０ａと略平行に位置させる。

【００７２】

その後、収納部側面構成部２６、３６を正面側に折り曲げて収納部背面構成部１２ａに対して略直角とし、さらに、収納部正面構成部２８、３８を収納部側面構成部２６、３６に対して収納部背面構成部１２ａ側に折り曲げることにより、収納部正面構成部２８、３８を収納部背面構成部１２ａの正面側に収納部背面構成部１２ａと略平行とする。

【００７３】

その後、収納部底面構成部１２ｂを収納部背面構成部１２ａに対して正面側に折り曲げ、収納部背面構成部１２ａに対して略直角とし、収納部正面構成部１２ｃを収納部底面構成部１２ｂに対して上方に折り曲げ、収納部底面構成部１２ｂに対して略直角とし背面側に収納部正面構成部２８、３８と接するようにする。

【００７４】

その後、収納部正面裏側構成部１２ｄを収納部正面構成部１２ｃに対して折り曲げ、収納部正面構成部１２ｃの背面側に収納部正面構成部１２ｃと略平行とし、さらに、収納部底面内側構成部１２ｅを収納部正面裏側構成部１２ｄに対して折り曲げて、収納部底面構成部１２ｂの上面に接するようにする。その際、収納部正面構成部１２ｃと収納部正面裏側構成部１２ｄ間に収納部正面構成部２８、３８の内側の突状部を挟むようにする。

【００７５】

以上のように組立てを行なうことにより、図１５に示すように収納部Ｓが形成される。収納部Ｓには、収納空間が形成されるので、図１６に示すように、この収納空間に商品の広告や説明等を記載したカードＷを収納しておくことができる。よって、内箱部Ａ１の正面側に商品の広告や説明等を記載したカードを配置した状態で、被収納物を内箱部Ａ１に収納した状態で被収納物を陳列することができる。特に、収納部Ｓは正面側に突出して設けられるため、商品を収納した状態の内箱部Ａ１を棚に置いた状態では、棚に載置される物の脱落、値札を設置するためのプライスレールを正面側に超えて収納部を配置できるので、収納部Ｓに収納されたカードをユーザに気づきやすくして販促効果を高めることができる。

【００７６】

また、特に、収納部正面構成部２８、３８には収納部Ｓとして組み立てた際に内側の下側に内側に突出する突状部が形成されているので、その突状部を収納部正面構成部１２ｃと収納部正面裏側構成部１２ｄで挟む構成とすることにより、収納部正面構成部１２ｃと収納部正面裏側構成部１２ｄの高さ方向の幅を小さくでき、よって、収納部Ｓの正面側を広く開口した構成とすることができ、収納されたカードを見やすくすることができる。

【００７７】

なお、外箱部Ａ２には、切欠部Ｋ１４、Ｋ１８が設けられていて、正面部１１０や側面部１２０、１３０の下端が外側と内側間を移動する余裕があるので、外箱部Ａ２を容易に

引き上げることができる。また、被収納物の陳列状態においては、内箱部Ａ１における正面部１０の高さ方向の長さは、背面部４０の高さ方向の長さよりも小さく形成されているので、正面部１０を正面側として陳列することにより被収納物をユーザから見やすくすることができる。

【００７８】

本実施例の包装箱Ａによれば、図１や図２に示すように、上方が開口した包装箱Ａに対して上方から被収納物である商品を収納して、上面部１６０～１９０を閉じて１つの接着テープＴにより封止するのみであるので、容易に被収納物（商品）の梱包作業を行うことができる。

【００７９】

また、本実施例の包装箱Ａによれば、、外箱部Ａ２の側面部１２０、１３０の片部１２８、１３８を内側に押し込むことにより片部１２６、１３６の先端に指を引っかけることができるようにした後に、片部１２６、１３６を外側に回動させて、分離部２４、３４を内箱部Ａ１から分離して外箱部Ａ２を上方に引き上げるのみで陳列することができるので、陳列作業を容易に行なうことができる。

【００８０】

また、特に、本実施例の包装箱Ａにおいては、内箱部Ａ１に商品を陳列する際に、内箱部Ａ１の正面側に収納部Ｓを組み立てて形成することができ、この収納部Ｓに商品の広告や説明等を記載したカードを収納しておくことができる。よって、販促効果を高くすることができる。

【００８１】

また、特に、本実施例の包装箱Ａにおいては、片部１２６、１３６が外箱部Ａ２の側面部１２０、１３０の下端位置よりも上側に設けられ、特に、片部１２６、１３６は、スリーブ状部１０５の下端の縁部に対して垂直方向の回動軸を中心に水平方向に回動するので、商品が収納された収納物を持ち上げて搬送する際に、誤って片部１２６、１３６を回動させてしまうことがない。つまり、仮に、分離部と接着した片部で、回動させるための片部をスリーブ状部１０５の下端から上方に伸びる平行な切込みにより形成した場合には、包装箱Ａを持ち上げる際に該片部の位置を手に持って持ち上げると、誤って 該片部を回動させてしまい、内箱部Ａ１と外箱部Ａ２とを分離させてしまうおそれがあるが、本実施例の包装箱Ａの外箱部Ａ２における片部１２６、１３６は上記のように構成されているので、そのようなおそれがない。

【００８２】

なお、上記の説明において、外箱部Ａ２においては、スリーブ状部１０５を構成する正面部１１０と側面部１２０の境界位置に切欠部Ｋ１４が設けられ、正面部１１０と側面部１３０の境界位置に切欠部Ｋ１８が設けられているとして説明したが、同様の構成の切欠部を側面部１２０と背面部１４０の境界位置や側面部１３０と背面部１４０の境界位置に設けるようにしてもよい。なお、少なくとも、外箱部Ａ２におけるスリーブ状部１０５を構成する各部（正面部１１０と、側面部１２０、１３０と、背面部１４０）の境界位置における少なくとも２つの境界位置に切欠部を設ければ、少なくともスリーブ状部１０５を構成する各部のうちの３つの下端において外側と内側間を移動する余裕ができるので、外箱部Ａ２を内箱部Ａ１に対して容易に引き上げることができる。また、スリーブ状部１０５を構成する各部の境界位置の切欠部は、切込みであってもよい。

【００８３】

また、内箱部Ａ１の底面部５０において、接続片部６０が正面部１０から連設され、接続片部９０が背面部４０から連設されているとしたが、逆に、接続片部６０が背面部４０から連設され、接続片部９０が正面部１０から連設された構成としてもよい。また、本体部７０が側面部２０から連設され、副体部８０が側面部３０から連設されているとしたが、逆に、本体部７０が側面部３０から連設され、副体部８０が側面部２０から連設された構成としてもよい。

【００８４】

なお、上記の説明においては、内箱部Ａ１や外箱部Ａ２が４つの側面部を有するもの、つまり、平面視が四角形の形状のものとして説明したが、平面視が他の多角形のものでもよい。例えば、内箱部や外箱部における側面部が６つや８つのものでもよく、このように側面部の数が偶数の場合には、内箱部における２つの分離部は相対する側面部に設ける。例えば、平面視が六角形の場合には、互いに平行な側面部に２つの分離部を設ける。また、側面部の数が奇数の場合には、一方の分離部が設けられた側面部と平行な対向する側面部がある場合には、その側面部に他の分離部を設け、平行な側面部がない場合には、一方の分離部が設けられた側面部と最も平行に近い（つまり、該側面部となす角度が最も小さい）側面部に他の分離部を設ければよい。

【図面の簡単な説明】

【００８５】

【図１】本考案の実施例に基づく包装箱の前方斜視図である。

【図２】本考案の実施例に基づく包装箱の後方斜視図である。

【図３】本考案の実施例に基づく包装箱の分解斜視図である。

【図４】図１のＰ－Ｐ線における断面図である。

【図５】本考案の実施例に基づく包装箱の底面図である。

【図６】内箱部の展開図である。

【図７】図６における要部説明図である。

【図８】外箱部の展開図である。

【図９】包装箱を折り畳んだ状態を示す斜視図である。

【図１０】包装箱を折り畳んだ際の内箱部の折り畳み状態を示す斜視図である。

【図１１】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【図１２】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【図１３】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【図１４】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【図１５】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【図１６】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

【００８６】

Ａ 包装箱

Ａ１ 内箱部

Ａ２ 外箱部

５、１０５ スリーブ状部

１０、１１０ 正面部

１０ａ 本体部

１０ｂ 帯状部

１２ａ 収納部背面構成部

１２ｂ 収納部底面構成部

１２ｃ 収納部正面構成部

１２ｄ 収納部正面裏側構成部

１２ｅ 収納部底面内側構成部

２０、３０、１２０、１３０ 側面部

２２、３２ 本体部

２４、３４ 分離部

２６、３６ 収納部側面構成部

２８、３８ 収納部正面構成部

４０、１４０ 背面部

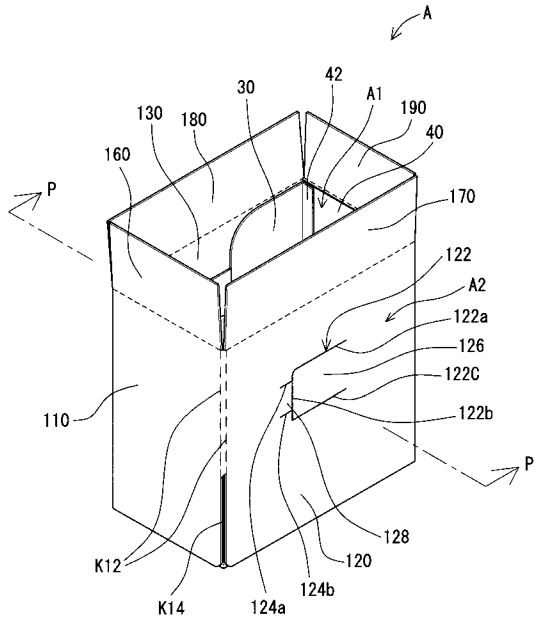
４２、１４２ 糊代部

５０ 底面部

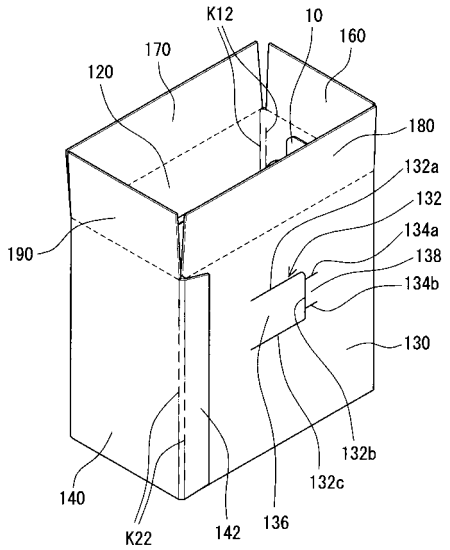
６０、９０ 接続片部

７０　本体部
８０　副体部
１２２、１３２　切込み
１２６、１３６　片部
１６０、１７０、１８０、１９０　上面部

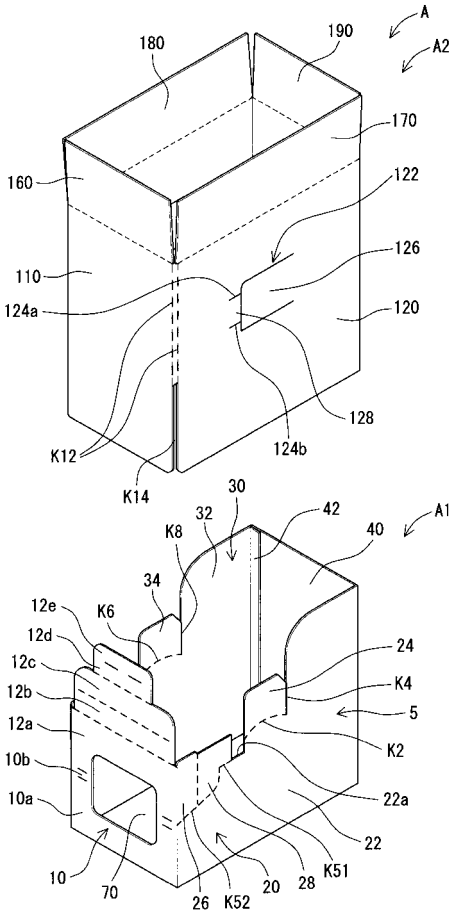
【図１】



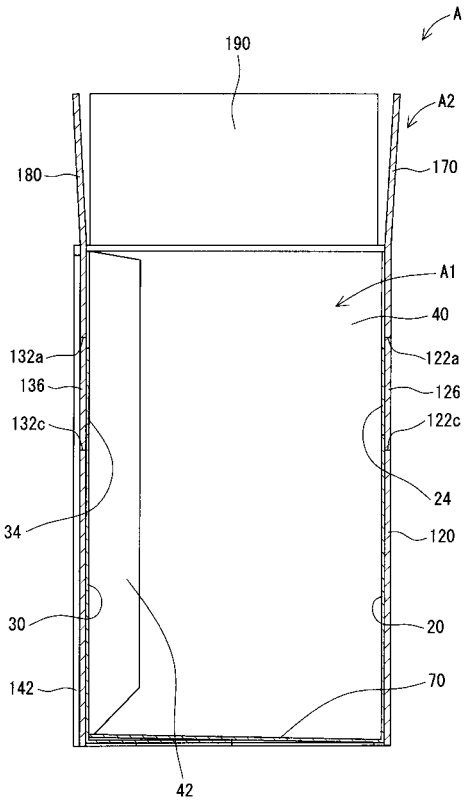
【図２】



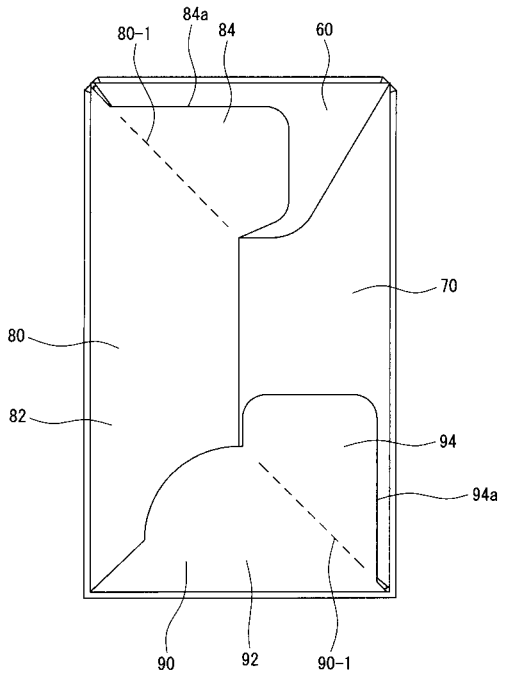
【図３】


A
A2
180
190
170
160
122
126
110
124a
120
128
124b
K12
K14
30
32
42
A1
K8
40
34
12e
K6
12d
24
12c
K4
12b
5
12a
K2
10b
22a
10a
22
10
70
26
K52
20
28
K51

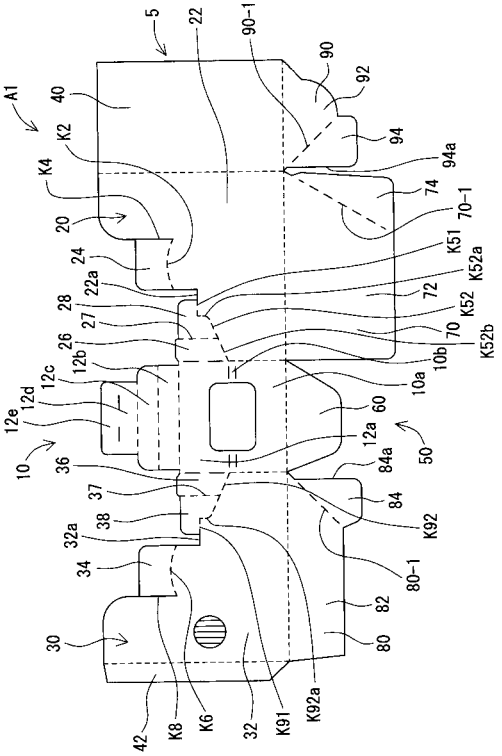
【図４】


A
190
A2
180
170
A1
40
132a
122a
136
126
132c
122c
24
34
120
30
20
142
70
42

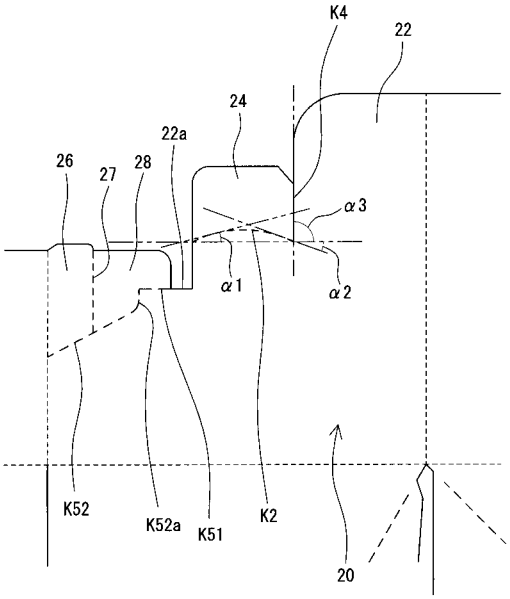
【図５】


84a
80-1
84
60
70
80
82
94
94a
90
92
90-1

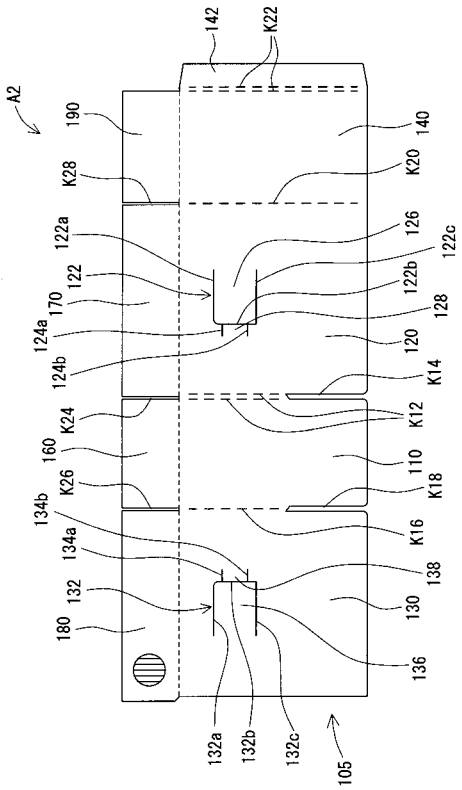
【図６】


5
22
90-1
90
92
A1
40
94
K2
94a
K4
74
70-1
20
K51
24
K52a
22a
72
28
K52
27
70
26
K52b
12b
10b
12c
10a
12d
60
12e
12a
50
10
36
84a
37
84
38
K92
32a
80-1
34
82
30
80
42
K8
K6
32
K91
K92a

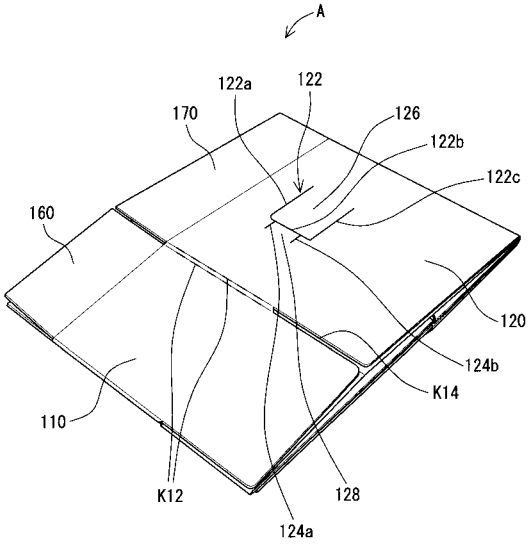
【図７】


K4
22
24
22a
26
27
28
α3
α1
α2
K52
K52a
K51
K2
20

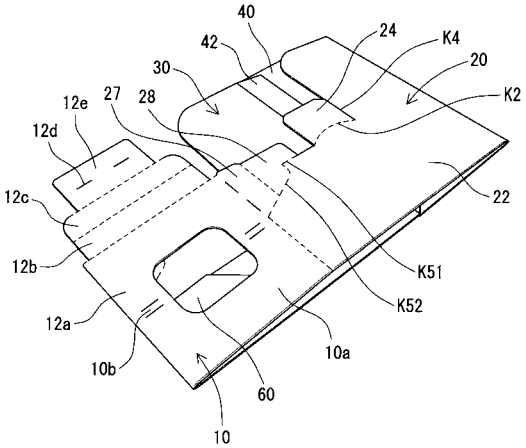
【図８】


142
K22
A2
190
140
K28
K20
122a
126
122c
122
122b
170
128
124a
120
124b
K14
K24
K12
160
110
K26
K18
134b
K16
134a
138
132
130
180
136
132a
132b
132c
105

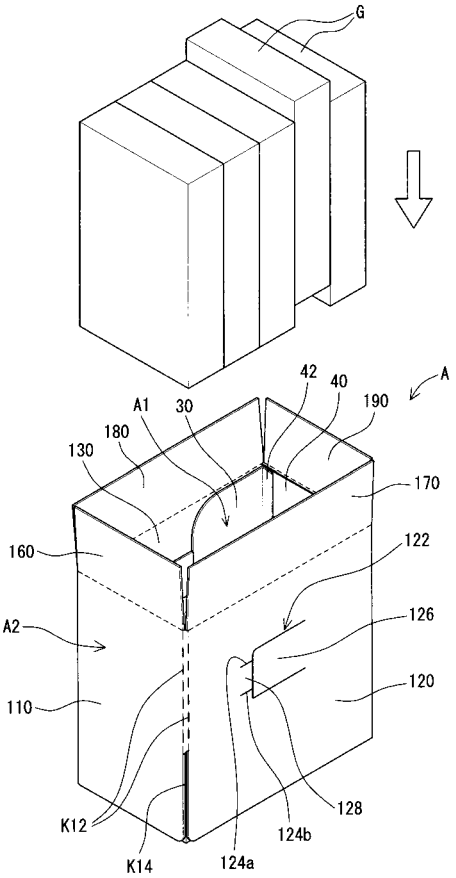
【図９】


A
122a
122
170
126
122b
122c
160
120
124b
K14
110
K12
128
124a

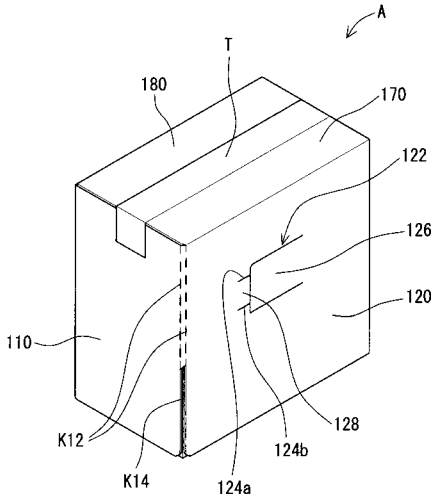
【図１０】


40
24
K4
42
20
30
K2
12e
27
28
12d
22
12c
12b
K51
K52
12a
10a
10b
60
10

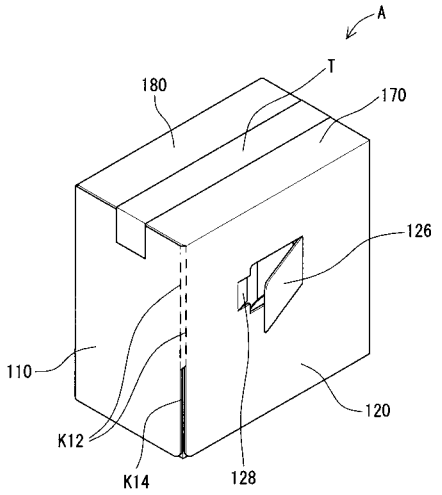
【図１１】



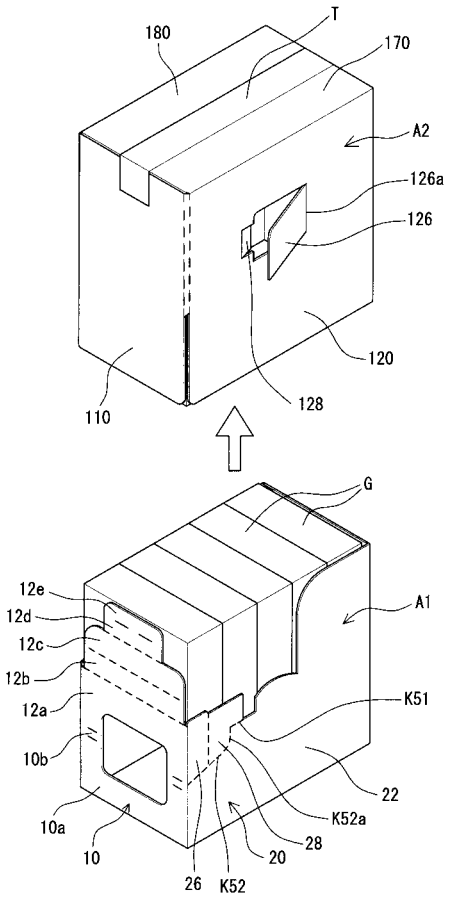
【図１２】



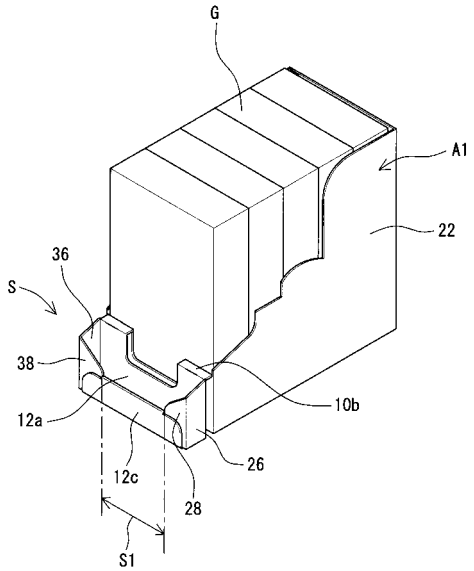
【図１３】



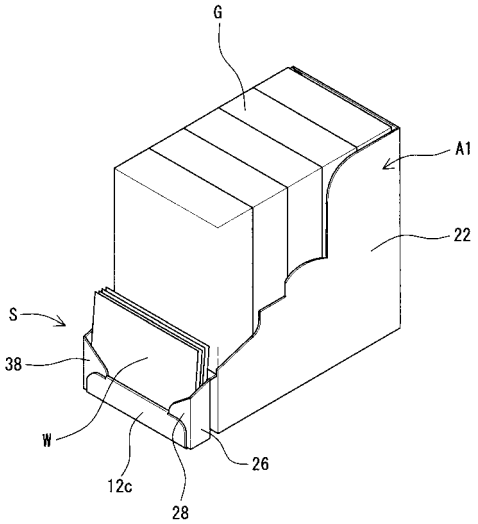
【図１４】



【図１５】



【図１６】



【手続補正書】
【提出日】平成20年10月6日(2008.10.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
包装箱であって、
略方形状の底面部と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなす内側スリーブ状部で、内側正面部と、相対する一対の内側側面部と、内側背面部とからなる内側スリーブ状部とを有し、相対する一対の内側側面部における各内側側面部が、内側側面部本体部と、分離部と、分離部よりも正面側に形成された収納部側面構成部及び収納部正面構成部とを有していて、収納部の組立て前の状態では平板状に形成され、該分離部が、内側側面部本体部とミシン目を有する切目線を介して内側側面部本体部から分離可能に形成され、１枚のブランクにより形成された内箱部と、
内箱部を覆う外箱部で、内箱部の内側スリーブ状部を構成する内側正面部と一対の内側側面部と内側背面部の各部に対応して該各部の外側の面に沿って設けられた外側スリーブ状部で、内側正面部の外側の面に沿って形成された外側正面部と、一対の内側側面部における各内側側面部の外側の面に沿ってそれぞれ形成された外側側面部と、内側背面部の外側の面に沿って形成された外側背面部とを有する外側スリーブ状部と、外側スリーブ状部の上端から折れ線を介して連設された蓋部とを有し、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部に分離部が接着され、外側側面部における分離部が接着された領域を含み切込みにより形成された片部が該外側側面部の他の部分に対して回動可

能に形成され、１枚のブランクにより形成された外箱部と、
を有し、
外側側面部における分離部が接着された該片部を回動させることにより、分離部が該片部に接着した状態のまま内箱部から分離し、
該内箱部の正面部は、底面部から折れ線を介して連設された本体部と、本体部の上辺から折れ線を介して連設された収納部背面構成部と、収納部背面構成部の本体部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部底面構成部と、収納部底面構成部の収納部背面構成部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された第２収納部正面構成部と、第２収納部正面構成部の収納部底面構成部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部正面裏側構成部と、収納部正面裏側構成部の第２収納部正面構成部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部底面内側構成部とを有し、収納部の組立て前の状態では、全体に平板状に形成され、
また、内側側面部において、該収納部側面構成部が、収納部背面構成部と折れ線を介して連設されるとともに、内側側面部本体部の正面側の上端とミシン目を有する切目線を介して連設され、該収納部正面構成部が、該収納部側面構成部の収納部背面構成部側と反対側の辺部から折れ線を介して連設されるとともに、内側側面部本体部の上端とミシン目を有する切目線を介して連設され、
収納部側面構成部と収納部正面構成部とを切目線を破断して内側側面部本体部から分離し、収納部背面構成部を本体部に対して折り曲げて、収納部背面構成部を本体部の正面側に本体部と略平行に位置させ、収納部側面構成部を収納部背面構成部に折り曲げて収納部背面構成部に対して略直角とし、さらに、収納部正面構成部を収納部側面構成部に対して折り曲げて収納部正面構成部を収納部背面構成部の正面側に収納部背面構成部と略平行とし、収納部底面構成部を収納部背面構成部に対して正面側に折り曲げ、収納部背面構成部に対して略直角とし、第２収納部正面構成部を収納部底面構成部に対して上方に折り曲げ、収納部底面構成部に対して略直角とし、収納部正面裏側構成部を第２収納部正面構成部に対して折り曲げ、第２収納部正面構成部の背面側に第２収納部正面構成部と略平行として、第２収納部正面構成部と収納部正面裏側構成部とで収納部正面部構成部を挟んだ状態とし、収納部底面内側構成部を収納部正面裏側構成部に対して折り曲げて、収納部底面構成部の上面に接するようにすることにより、収納部側面構成部と、収納部正面構成部と、本体部と、収納部背面構成部と、収納部底面構成部と、第２収納部正面構成部と、収納部正面裏側構成部と、収納部底面内側構成部とにより収納部を形成することを特徴とする包装箱。
【請求項２】
内側側面部本体部の上端と切目線を介して連設された上記収納部正面構成部において、収納部として組み立てた際に内側の下側に内側に突出する突状部が形成され、該突状部が第２収納部正面構成部と収納部正面裏側構成部とで挟まれた状態となることを特徴とする請求項１に記載の包装箱。
【請求項３】
内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、上記切込みが略コ字状に形成され、該略コ字状の切込みにより形成された上記片部が水平方向に回動可能となるように形成され、該片部の内側の面が分離部と接着されていることを特徴とする請求項１又は２に記載の包装箱。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本考案は上記問題点を解決するために創作されたものであって、第１には、包装箱であって、略方形状の底面部と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなす内側ス

リーブ状部で、内側正面部と、相対する一対の内側側面部と、内側背面部とからなる内側スリーブ状部とを有し、相対する一対の内側側面部における各内側側面部が、内側側面部本体部と、分離部と、分離部よりも正面側に形成された収納部側面構成部及び収納部正面構成部とを有していて、収納部の組立て前の状態では平板状に形成され、該分離部が、内側側面部本体部とミシン目を有する切目線を介して内側側面部本体部から分離可能に形成され、１枚のブランクにより形成された内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内箱部の内側スリーブ状部を構成する内側正面部と一対の内側側面部と内側背面部の各部に対応して該各部の外側の面に沿って設けられた外側スリーブ状部で、内側正面部の外側の面に沿って形成された外側正面部と、一対の内側側面部における各内側側面部の外側の面に沿ってそれぞれ形成された外側側面部と、内側背面部の外側の面に沿って形成された外側背面部とを有する外側スリーブ状部と、外側スリーブ状部の上端から折れ線を介して連設された蓋部とを有し、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部に分離部が接着され、外側側面部における分離部が接着された領域を含み切込みにより形成された片部が該外側側面部の他の部分に対して回動可能に形成され（「外側側面部における分離部が接着された領域が該外側側面部の他の部分から破断可能に形成され」としてもよい）、１枚のブランクにより形成された外箱部と、を有し、外側側面部における分離部が接着された該片部を回動させることにより、分離部が該片部に接着した状態のまま内箱部から分離し、該内箱部の正面部は、底面部から折れ線を介して連設された本体部と、本体部の上辺から折れ線を介して連設された収納部背面構成部と、収納部背面構成部の本体部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部底面構成部と、収納部底面構成部の収納部背面構成部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された第２収納部正面構成部と、第２収納部正面構成部の収納部底面構成部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部正面裏側構成部と、収納部正面裏側構成部の第２収納部正面構成部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された収納部底面内側構成部とを有し、収納部の組立て前の状態では、全体に平板状に形成され、また、内側側面部において、該収納部側面構成部が、収納部背面構成部と折れ線を介して連設されるとともに、内側側面部本体部の正面側の上端とミシン目を有する切目線を介して連設され、該収納部正面構成部が、該収納部側面構成部の収納部背面構成部側と反対側の辺部から折れ線を介して連設されるとともに、内側側面部本体部の上端とミシン目を有する切目線を介して連設され、収納部側面構成部と収納部正面構成部とを切目線を破断して内側側面部本体部から分離し、収納部背面構成部を本体部に対して折り曲げて、収納部背面構成部を本体部の正面側に本体部と略平行に位置させ、収納部側面構成部を収納部背面構成部に折り曲げて収納部背面構成部に対して略直角とし、さらに、収納部正面構成部を収納部側面構成部に対して折り曲げて収納部正面構成部を収納部背面構成部の正面側に収納部背面構成部と略平行とし、収納部底面構成部を収納部背面構成部に対して正面側に折り曲げ、収納部背面構成部に対して略直角とし、第２収納部正面構成部を収納部底面構成部に対して上方に折り曲げ、収納部底面構成部に対して略直角とし、収納部正面裏側構成部を第２収納部正面構成部に対して折り曲げ、第２収納部正面構成部の背面側に第２収納部正面構成部と略平行として、第２収納部正面構成部と収納部正面裏側構成部とで収納部正面部構成部を挟んだ状態とし、収納部底面内側構成部を収納部正面裏側構成部に対して折り曲げて、収納部底面構成部の上面に接するようにすることにより、収納部側面構成部と、収納部正面構成部と、本体部と、収納部背面構成部と、収納部底面構成部と、第２収納部正面構成部と、収納部正面裏側構成部と、収納部底面内側構成部とにより収納部を形成することを特徴とする。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
この第１の構成の包装箱においては、蓋部を開けた状態として、包装箱の上方から複数

の被収納物（商品）を内箱部内に収納する。その後、蓋部を閉状態にして、接着テープにより蓋部を封止する。つまり、外箱部の外側正面部から上面を経て外側背面部側にまで接着テープを貼り付けることにより蓋部を封止する。被収納物を包装箱に包装したら、被収納物を収納した包装箱を被収納物を陳列する場所に搬送する。その後、被収納物を陳列する場合には、外箱部を内箱部から分離する。すなわち、外側側面部における分離部が接着された片部を回動させることにより、分離部が該片部に接着した状態のまま内箱部から分離させ、外箱部を上方に引き上げることにより、被収納物を収納した状態で、かつ、分離部が分離した状態の内箱部が残るので、被収納物を内箱部に収納した状態で被収納物を陳列する。また、収納部を組み立てることにより、収納部に商品の広告や説明等を記載したカードを収納しておく。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
　また、第３には、上記第１又は第２の構成において、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、上記切込みが略コ字状に形成され、該略コ字状の切込みにより形成された上記片部が水平方向に回動可能となるように形成され、該片部の内側の面が分離部と接着されていることを特徴とする。